

登録コード	E4270900	開講年度	2026				
授業科目	総合的な学習の授業づくり					担当教員	伏木 久始
英文授業名	Designing Interdisciplinary Learning Activity Practices					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	2～4年生
講義室	教育N 3 0 3 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2 6 E カリ, 2 5 E カリ, 2 4 E カリ, 2 3 E カリ, 2 2 E カリ, 2 1 E カリ, 2 0 E カリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					教育現場に求められる人権意識と倫理観を高めることができる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					総合的な学習の時間のテーマ設定やカリキュラムづくりの指導について教育学理論に基づいて構想できる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
(4)授業の概要	第1～3回までは、総合的な学習の時間に関する基本的な知識等を講義により学び、求められている指導内容・方法と学校現場での実情を理解する。第4～6回では総合的な学習の時間の実践事例を通して指導法を学ぶ。第7～8回では演習形式でカリキュラム開発の基礎知識を学び、第9～12回では特定の地域のリアルな実情と課題に向き合い、子どもたちと共に地域で学ぶことを想定したカリキュラムの作成に挑む。その際、対象を少子・人口減少に悩む過疎地域とし、地域活性化や社会的課題の解決を踏まえたスクール・コミュニティを取り上げる。授業においてはグループワークをしばしば取り入れ、学生自らが主体的・対話的に学ぶ機会を提供する。 なお、授業担当者は小学校・中学校・高校での教職経験を有し、現在も頻繁に学校現場の校内研修をサポートしており、それらの経験を活かして講義・演習を行う。						
(5)授業計画	第1回：授業オリエンテーション／「総合的な学習の時間」の経験を振り返る 第2回：学習指導要領における「総合的な学習の時間」と学校現場の実情 第3回：海外の教科横断的・学際的な学習【遠隔になる場合がある】 第4回：総合的な学習の実践事例（1）- 小学校編 第5回：総合的な学習の実践事例（2）- 中学・高校編 第6回：特別活動と総合的な学習の連携事例【遠隔になる場合がある】 第7回：ワークショップ（1）- クローズドテーマでカリキュラムをつくる - 第8回：ワークショップ（2）- オープンテーマでカリキュラムをつくる - 第9回：対象とする過疎地域の実情把握 第10回：スクール・コミュニティと総合的な学習 第11回：総合的な学習のカリキュラム作成演習（1） 第12回：総合的な学習のカリキュラム作成演習（2） 第13回：作成したカリキュラムのプレゼンテーションと相互評価 第14回：講義・演習のまとめと「ふりかえり」						
(6)成績評価の方法	・学習指導要領に関わる基礎的理解の確認テストの成績（20％）、毎回eALPS上で課される課題の成績（20％）、グループワーク等でのパフォーマンス（10）、作成したカリキュラムにおける課題の取り組みと達成度（50％）を総合的に評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。						
(7)成績評価の基準	・卓越している…総合的な学習に関する基礎理論と指導方法を理解し、カリキュラム作成に関する理論とその方法を十分に理解した上で、過疎地域の課題解決に有効なアイデアを提供している。 ・かなり上である…総合的な学習に関する基礎理論と指導方法を理解し、カリキュラム作成に関する理論とその方法を十分に理解している。 ・やや上にある…総合的な学習に関する基礎理論とその指導方法をおおむね理解している。 ・認定水準にある…総合的な学習に関する基礎理論を理解している。						
(8)事前事後学習の内容	・eALPSの各授業回の欄にアップロードされた授業資料をダウンロードして、指定された予習または復習の課題を、期限までに取り組むこと。 ・グループワークにおける課題は授業中にクリアできなかった場合には受講生グループ同士で時間を見つけて協働的に取り組むこと。						
(9)履修上の注意	・この授業は、教職免許科目の「幼・小・中・高」共通科目としての教職科目としての選択科目である。 ・学年や既習科目の条件等で受講者を制限することはないが、演習内容には高い専門性を必要とするため、教育実習を経験した学生の受講が望ましい。ただし、市民開放講座の受講者を含め、各教科の指導法等の受講実績が少ない受講者に対しては、別に補助資料等を提供して対応する努力をする。 ・SDG'sにも配慮してペーパーレス化を進めるため、ノートPC又はタブレットPCをできるだけ持参して受講すること。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問・相談等は事前にメール等でアポイントメントをとっていただければ授業担当者の研究室（N 3 1 0）で随時対応します。 メールアドレス：hfusegi@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	・なし（書籍の代わりに毎時間の講義・演習に必要な資料をeALPSにアップロードする）						
【参考文献】	・幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領						

【参考文献】	・適宜、授業の中で紹介する。
--------	----------------